

古川高等学校校歌

星合愛人 作詞 田村虎蔵 作曲

1. 心の琴の絃も張る 春は万朶の花の雲
胸の思いも澄みわたる 秋は黄金の稲の波
尽きぬ眺望の大崎に 基礎を置ける教の舎
2. 嵐をやどす栗駒や 雲井に晴るる船ヶ岳
晴に曇にゆるぎなく 空を凌ぎて立つを見よ
高きをしたう我が胸の 理想のかげと粧うべく
3. 緑を染めて溶々と 走る荒雄や鳴瀬川
学びの道にすすむ身の 鑑は我とささやくか
日夜にゆきてたゆみなき 果は果なき大海に
4. その水長く山高き 我が東北の大原野
気の秀麗を身にうけて 健児むなしくやむべきか
青春今を盛にて 我が胸躍り我が血わく

応 援 歌

(図南歌)

1. 船形おろしの雪消えて 大崎原頭かすみひき
花らんまんの春来れば 紅燃ゆる胸の血を
青春の意気もて包みつつ 多感の遊子は去り行きぬ
ああ心のふるさと なつかしの母校
2. 千古の秀峰栗駒を 朝な夕なに仰ぎつつ
びょうたる西風身に受けて 三つ歳ここに鍛えたる
鉄腕熱血生気みち 学びの校舎を築立つ時
ああ猛者の眼に つゆ宿る

(一般応援歌)

1. 北にうそぶく大崎の 健児図南の意気高し
見よ栗駒のその雄姿 理想の我等が面影を
鉄騎一たび鞭あげば 全軍の意気天をつく
2. 鳴瀬の川に月淡く 東雲空を染むる時
紅燃ゆるもみじばは 神の恵かひおどしか
古高の猛者戎衣の風 鎧袖一触何かあらん

(野球部歌)

1. 立てよいざ立て我が友よ 戦わんかな時至る
正義の楯に赤熱の 血潮たばしる我等がナイン
2. 彼に孫呉の術あらば 我に竜虎の智勇あり
戦の庭の花吹雪 散らさで敵を帰すべき

(球技部歌)

1. 大崎耕土に秋たけて 治乱の夢をこえ行けば
高なる胸の紅の 若人の血は燃えにけり
2. 熱球飛ばば目にも見よ 音にも響く古高の
奮えや奮え我が選手 覇権を握る秋はきぬ

(剣道部歌)

1. 山紫に水清き 大崎耕土の暁に
知るや時代の 鐘の音を
我がたましいに呼びかけて 真理の秘庫をひらかんと
剣もて我は 進むなり

凱 歌

1. 我等の夢は古高の 庭に芽生えて育ちゆく
鍛えに鍛え今ここに 勝利輝き意気高し
母校の荣誉守り得つ 古高 古高 我等は勝てり
2. 螢に雪は古高の 我等希望の旗じるし
決意新たに励みきて 勝利再び我が胸に
闘魂燃し戦わん 古高 古高 我等が選手